

中西 健夫（なかにし・たけお）先生

株式会社ディスクガレージ 代表取締役社長
一般社団法人コンサートプロモーターズ協会 会長

■略歴:

- 1972年 京都にてバンド活動開始
- 1979年 バンドでメジャーデビュー（全く売れず1年で解散）
- 1980年 株式会社 ディスクガレージにてアルバイトを始める
- 1981年 株式会社 ディスクガレージの社員となる
- 1990年4月 株式会社 ディスクガレージ 取締役専務 就任
- 1993年4月 株式会社 ディスクガレージ 代表取締役副社長 就任
- 1997年4月 株式会社 ディスクガレージ 代表取締役社長 就任

■その他兼任:

- ・一般社団法人 コンサートプロモーターズ協会 副会長
- ・特定非営利活動法人 音楽文化振興委員会 理事長
（『MUSIC DAY』運営団体）
- ・WHDエンタテインメント株式会社 代表取締役CSO
- ・ポイントグリーン推進環境会議事務局 理事

■参考ホームページ:

- ・「一般社団法人 コンサートプロモーターズ協会」 <http://www.acpc.or.jp/>
- ・「特定非営利活動法人 Point Green 推進環境会議」 <http://www.pointgreen.jp/>



《講義概要》

株式会社ディスクガレージの代表取締役社長として、数々のコンサートやイベント等の企画・制作・運営を手掛ける中西健夫氏が、災害・復興を通じた今後のエンタテインメントのあり方について講義を行った。

講義ではまず、1970年代から現在に至る音楽業界の歴史やコンサート業界の最新の動向について具体的に説明し、ビジネスの中心がCDからコンサートへと移行している現状や、今後は首都圏の大規模公演を中心に、ライブビジネスが重要なポイントとなることを示した。また、影響を与え続けるアーティストや今後求められるアーティストの姿についても言及した。

続いて、震災から1年余り経過した現在、これからも音楽を通して何ができるのか考えて行動し、その思いを継続していくことが大切であると訴え、数々の復興コンサートやイベントについてアーティストや音楽業界の方々の思いを織り交ぜながら紹介した。

さらに、韓国や中国等のビジネス戦略を紹介し、日本経済が危機的状況であることを指摘した。この実態を把握した上で、今後の日本はどうあるべきか、今一度真剣に考えて欲しいと学生へメッセージを残した。

《受講生の感想》

●音楽やライブをつくりあげる人の思いを知ることができ、音楽が人に与える影響、音楽の力のすごさを改めて感じました。震災の復興ライブで人が大勢集まり、その集まった人の膨大なお金を届けるという仕組みはエンタテインメントならではの震災支援だと思いました。また、日本はこれからもっと世界を見据えた活動が必要だと思いました。

立命館大学・産業社会学部・2回生

●日本という国が今後新しく発展していくためには、震災をきっかけに仕組みを変え、国策として取り組んでいくべきだと思いました。音楽業界にできることが復興コンサートであったように私にできることは何か、これからも考え、実行していきたいです。

立命館大学・産業社会学部・2回生

●色々なアーティストが色々な想いを持って復興のために活動していたということが改めて分かった、そこで集められた義援金がお金を必要としている場所に直接届くというのは大変なことだけどそれを実現しているのはステキなことだと思いました。また、誰かのために何ができるか、日本のために何ができるか微力ながら努力したいです。 立命館大学・法学部・3回生

●「音楽で人は変わる。人の心を動かせる。」このことをすごく思い、考えさせられた講義でした。復興に向けてたくさんの事業、何よりもアーティストが動いたことに感銘を受けました。私も何か発信していきたいと思いました。周りの友達でも、家族でも、大切にしたいです。私のできる範囲で周りに影響の与えられる人になりたいです。すごく感動した講義でした。

立命館大学・産業社会学部・3回生

●改めて音楽の力や、音楽を生み出す人や支える人の力はすごいと思います。音楽業界の時代の流れやそこに介在するビジネスのお話し、業界を取り巻く環境のお話しが何えて、とても勉強になりました。また、ライブのお話しはとても興味深かったです。大規模公演が増えたことや、首都集中化についてなど分かりやすかったです。

立命館大学・法学部・4回生

●韓国の勢いに負けることなく日本のコンテンツを売っていくためにも、もっと若い世代が台頭できる環境、ビジネスモデルの構築が必要であり、国レベルでの取り組みが大切だと感じました。

立命館大学・映像学部・4回生

